

橋本市

道路橋個別施設計画

令和 7年 12月

橋本市 建設部 都市整備課

§ 1. はじめに

(1) 本計画の位置付け

公共施設の長寿命化を図るため、平成25年11月に国で決定された「インフラ長寿命化基本計画」において、地方公共団体における策定が期待されている「インフラ長寿命化計画（行動計画）」に該当するもので、平成26年4月に総務省から示された「公共施設等総合管理計画の策定にあたっての指針」に基づき、公共施設等の一体的なマネジメントの方針を示すものとして平成28年3月に「橋本市公共施設等総合管理計画 基本方針編」を策定しました。

本計画は、本市の総合計画に示される施策を踏まえつつ、基本方針編に基づき、橋梁における定期点検及び修繕の具体的な対応方針を定めたものであり、行動計画に基づく個別施設計画として位置付けます。

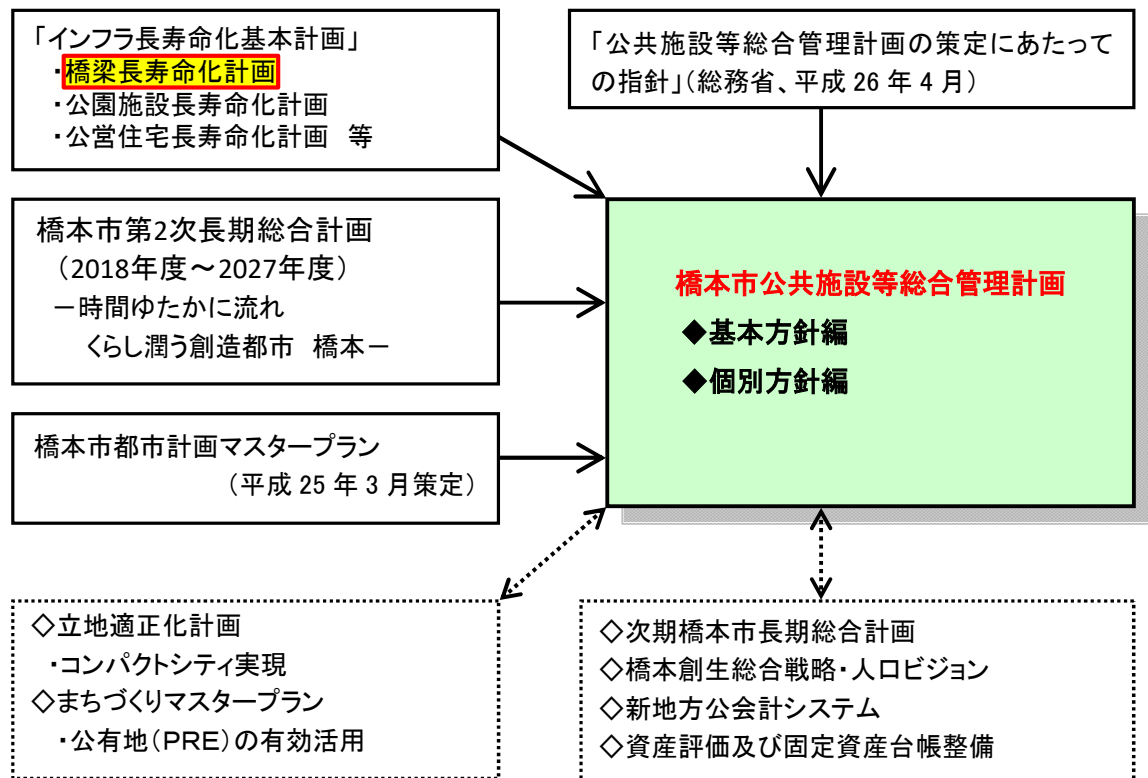


図1-1 橋本市公共施設等総合管理計画の位置づけ

① 対象施設

本計画の対象とする橋梁は、橋本市が管理する道路法第2条第1項に規定する道路における橋長2.0m以上の橋、高架の道路等（以下「道路橋」という）とします。

② 計画期間

平成27年度から1巡目、令和2年度から2巡目の定期点検が完了しました。3巡目の計画期間としては、定期点検サイクルが5年に1回のため、令和7年度から令和11年度までの5年間とします。

ただし、道路橋の状態は、経年劣化や疲労等によって変化することから、定期点検結果等を踏まえ、適宜、計画を更新するものとします。

§ 2. 長寿命化修繕計画策定の背景と目的

今後、橋本市が管理する道路橋の老朽化が急速に進行することから、従来の対症療法的な事後保全では近い将来、財政的に対応が困難になります。

このため、長寿命化修繕計画に基づき痛みの小さいうちに計画的に措置（修繕）する「予防保全型管理」により施設の長寿命化を図ります。

今後、この計画に基づき対策を着実に実施することにより、施設の更新投資額の削減を図ります。

(1) 背景

急速な老朽化

2023年時点で、建設後50年を超える橋梁数は全体の約23%程度ですが、10年後には約56%、20年後には約73%と急速に高齢化が進展する見込みです。

財政的な負担

少子高齢化の進展により税収の大きな伸びが期待できない中、社会保障関連費などの経常経費の割合が増加しており、社会基盤施設への投資的経費の金額が減少傾向にあります。

適切な修繕を先送りすると

将来への懸念

- ・大規模な修繕や更新のために生じる膨大な財政負担
- ・大規模修繕工事に伴う交通規制による、社会経済活動への影響
- ・崩落に至るような事故が発生した場合、人命に関わる重大事故

(2) 目的

市が管理する橋梁は、架設年数とともに老朽化が進み修繕にかかる費用の増加が見込まれます。そのため、従来の対症療法的な事後保全「痛んでから治す管理」から「痛みが小さいうちから計画的に対策を実施することで長寿命化（長持ち）させる管理」予防保全型管理へ転換することで、費用の縮減と平準化を図るとともに道路の安全性と信頼性を確保することを目的とします。

管理方法の考え方

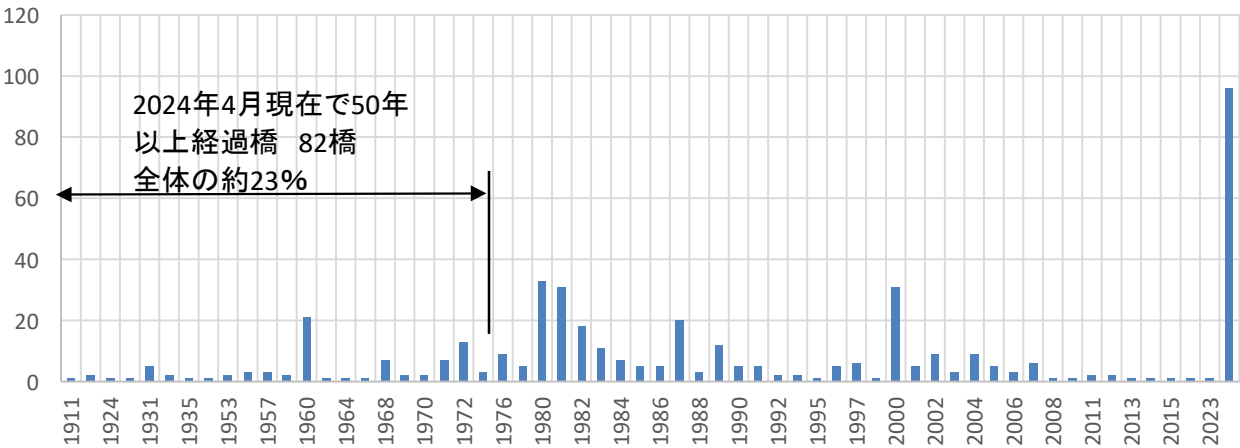
管理方法	内 容
事後保全型管理	日常点検や定期点検などにより、橋梁の老朽化に伴う損傷や劣化を把握し、その都度必要な対策を行う。
予防保全型管理	橋梁に発生する損傷や劣化を事前に予測し、適切な対応を効果的・効率的に行うことにより、事故等を事前に防止し安全性・耐久性を確保する。

(3) 道路橋の架設年次別構成

2024 現在
4月

架設年次	橋数	年数	架設年次	橋数	年数	架設年次	橋数	年数	架設年次	橋数	年数
1911	1	113	1969	2	54	1990	5	34	2009	1	15
1921	2	103	1970	2	53	1991	5	33	2011	2	13
1924	1	100	1971	7	53	1992	2	32	2012	2	12
1926	1	98	1972	13	52	1994	2	30	2013	1	11
1931	5	93	1974	3	50	1995	1	29	2014	1	10
1934	2	90	1976	9	48	1996	5	28	2015	1	9
1935	1	89	1979	5	45	1997	6	27	2017	1	7
1936	1	88	1980	33	44	1999	1	25	2023	1	1
1953	2	71	1981	31	43	2000	31	24	不明	96	
1956	3	68	1982	18	42	2001	5	23			
1957	3	67	1983	11	41	2002	9	22			
1958	2	66	1984	7	40	2003	3	21			
1960	21	64	1985	5	39	2004	9	20			
1963	1	61	1986	5	38	2005	5	19	合計	446	
1964	1	60	1987	20	37	2006	3	18	内訳		
1965	1	59	1988	3	36	2007	6	17	架設年次判明	350	
1968	7	56	1989	12	35	2008	1	16	架設年次不明	96	

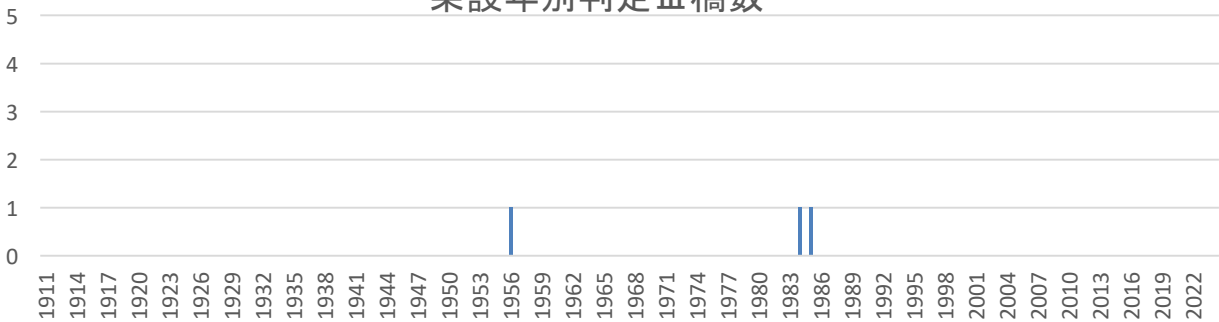
架設年次別橋数



(4) 2023.12現在、早期に措置が必要（判定Ⅲ）な道路橋の架設年次別構成

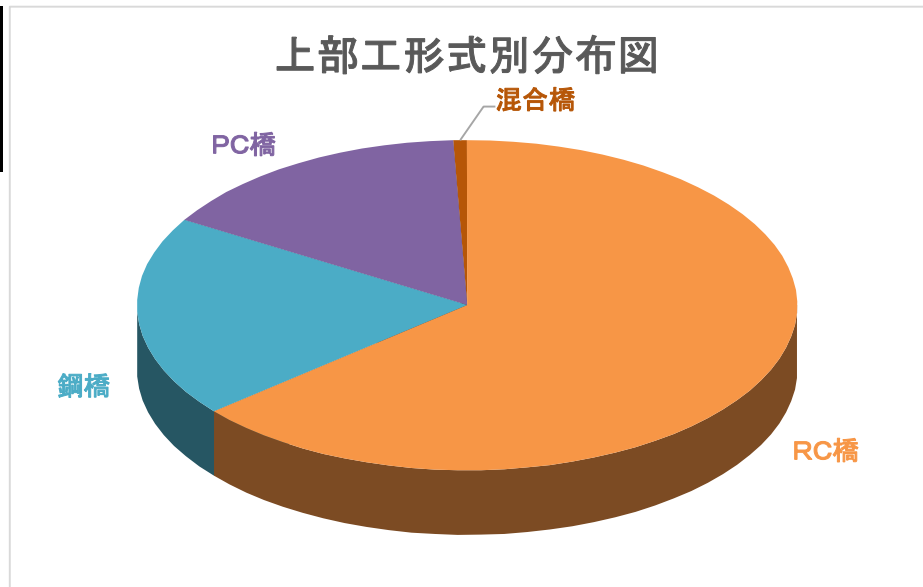
架設年次	橋数
1956	1
1984	1
1985	1

架設年別判定Ⅲ橋数



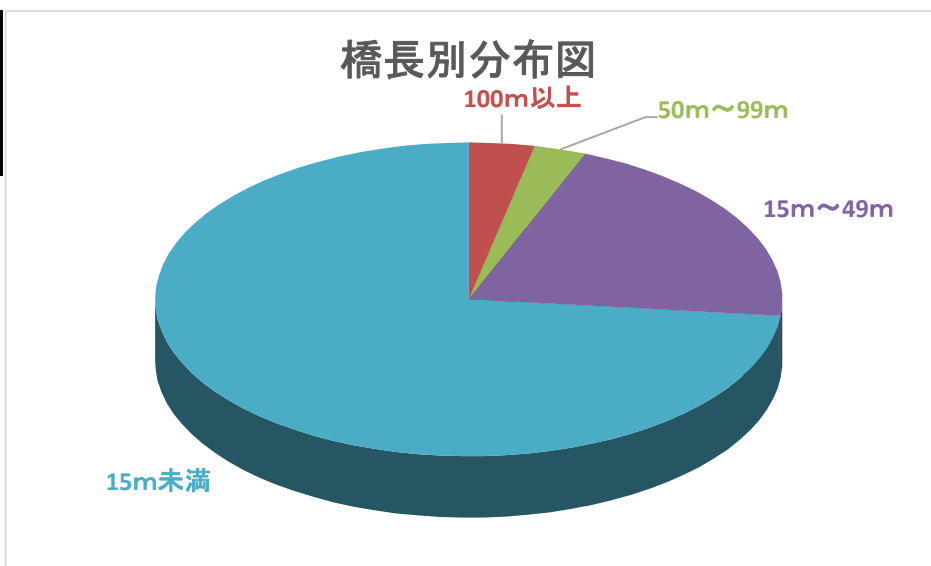
(5) 上部工形式別の橋数構成

上部工形式	橋数	割合
RC橋	285	63.9%
鋼橋	88	19.7%
PC橋	70	15.7%
混合橋	3	0.7%



(6) 橋長別の橋数構成

橋長	橋数	割合
100m以上	15	3.4%
50m～99m	12	2.7%
15m～49m	92	20.6%
15m未満	327	73.3%



§ 3. 道路橋の現状

(1) 道路橋数

橋本市では令和7年4月現在、446橋の道路橋を管理しており、このうち、15m以上119橋、15m未満327橋となります。

(2) 道路橋の老朽化推移

橋本市が管理する道路橋446橋のうち架設年が判明している350橋の中で、建設後50年以上経過した道路橋に占める割合は、2024年4月現在、82橋（約23%）ですが、今後20年間で255橋（約73%）にまで達することになります。

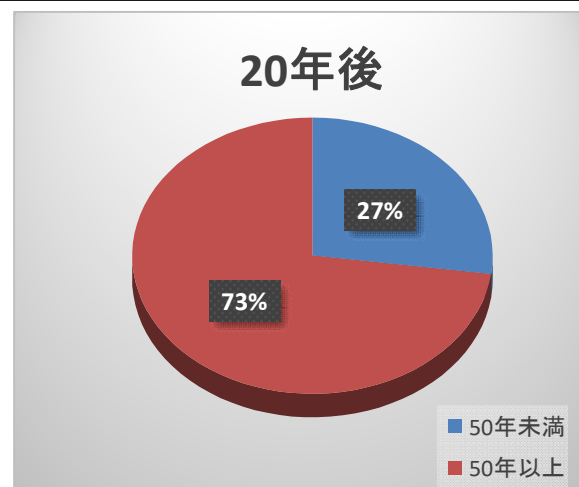
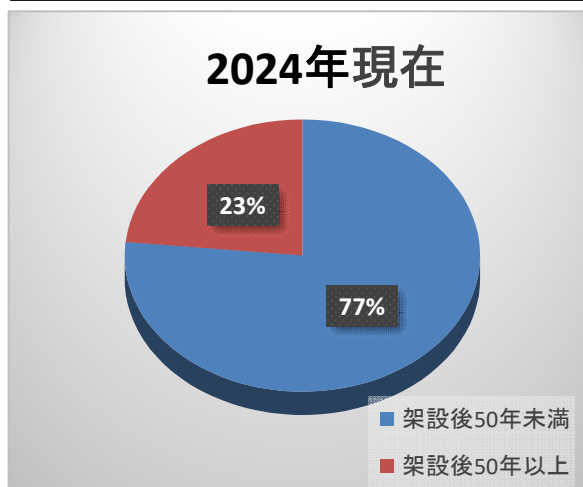
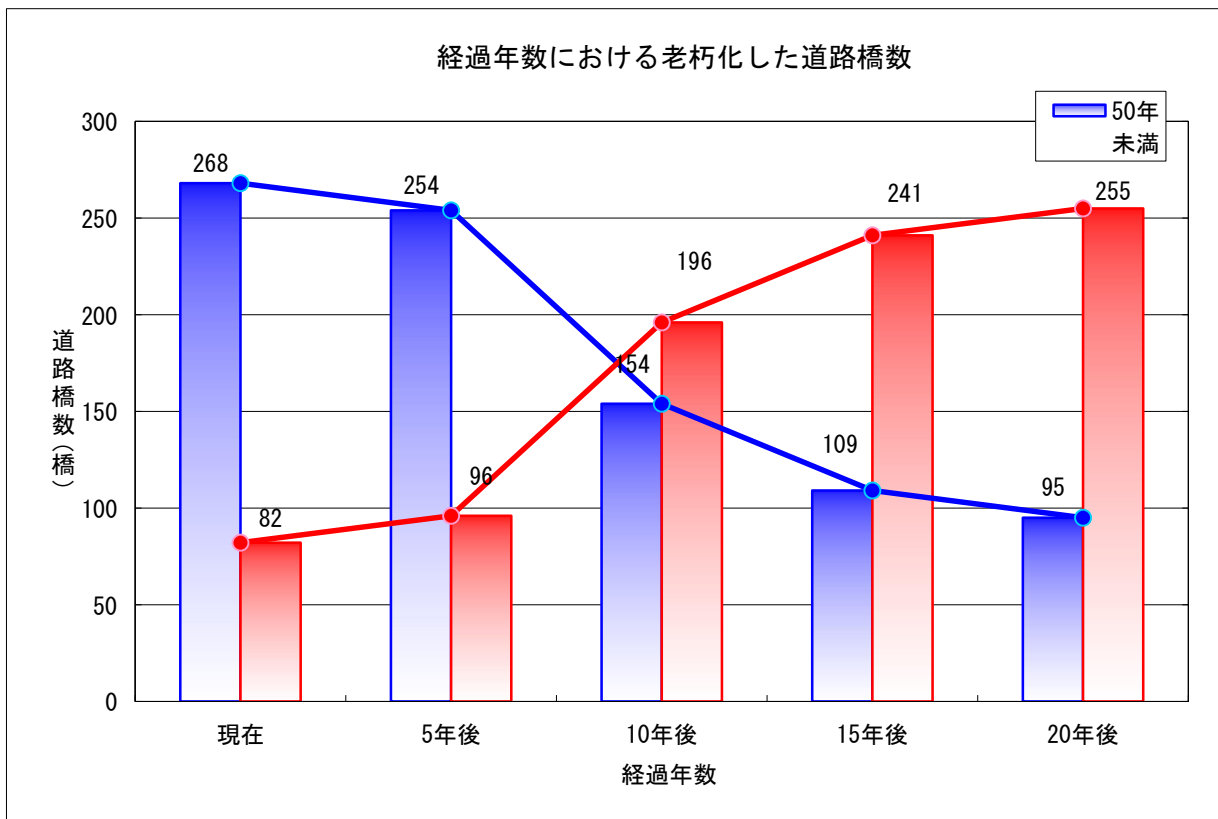


図3-1 建設後50年以上経過した道路橋数の変化

§ 4. メンテナンスサイクルの基本的な考え方

今後、老朽化の進行が見込まれる道路橋の修繕・架け替えに要する費用のコスト縮減を図るため、『点検→診断→措置→記録→（次回の点検）』のメンテナンスサイクルを構築します。

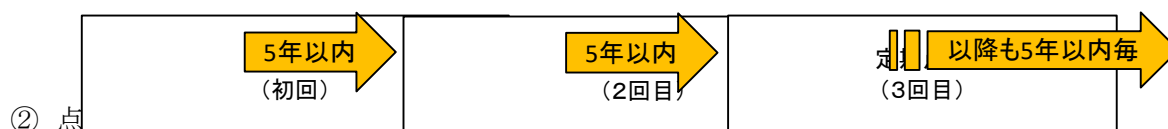
（１）定期点検

定期点検は、「道路橋定期点検要領（令和6年3月 国土交通省 道路局）」を参考に点検・診断を実施し、道路橋の劣化・損傷の程度や原因等を把握するとともに、次回の定期点検までにおける措置の必要性を判断する上で、必要な情報を得るために行います。

また、より詳細な点検・記録が必要な場合は、「橋梁定期点検要領（令和6年3月 国土交通省道路局国道・技術課）」を参考に内容を加えて行います。

① 点検の頻度

定期点検は、5年に1回の頻度で実施することを基本とします。



定期点検は、近接目視により行うことを基本とします。近接目視とは、肉眼により部材の変状等の状態を把握し、評価が行える距離まで接近して目視を行うことを想定しています。

また、必要に応じて触診や打音検査を含む非破壊検査による調査を行います。



写真4-1 近接目視による点検状況



写真4-2 措置（南海跨線橋：塗替え）



写真4-3 措置（橋谷橋：架け替え）

（２）健全性の診断

定期点検は、部材単位の健全性の診断と、道路橋毎の健全性の診断を行います。判定区分は、Ⅰ～Ⅳの４段階の区分により行います。

① 部材単位の健全性の診断

部材単位の健全性の診断は、表4-1の判定区分により行うことを基本とします。なお、点検時に、うき・剥離等があった場合は、道路利用者及び第三者被害防止の観点から応急措置を実施した上でⅠ～Ⅳ判定を行います。

表4-1 判定区分

区 分		状 態
Ⅰ	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態。
Ⅱ	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
Ⅲ	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
Ⅳ	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

② 道路橋毎の健全性の診断

道路橋毎の健全性の診断は、表4-2の判定区分により行います。

健全性の診断は、道路橋全体の状況を把握することを目的に行うもので、部材単位の健全性の診断結果を踏まえて、道路橋毎に総合的にⅠ～Ⅳ判定を行います。なお、構造物の性能に影響を及ぼす主要な部材に着目し、最も厳しい健全性の診断結果で判定します。

表4-2 判定区分

区 分		状 態
Ⅰ	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態。
Ⅱ	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
Ⅲ	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
Ⅳ	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

(3) 維持管理体制

定期点検結果に基づき、道路橋の性能を可能な限り維持し、長期的に使用できるように、『事後保全型』から計画的に保全を行う『予防保全型』へ転換し、道路橋の長寿命化、ライフサイクルコスト（以下「LCC」という）の削減を図ります。

また、5年間隔を目処に定期点検を行うとともに、道路橋を良好な状態に保つため、日常的な維持管理としてパトロール、清掃などを実施します。

定期点検結果については、点検表記録様式に記録・保存し、データの蓄積を行います。

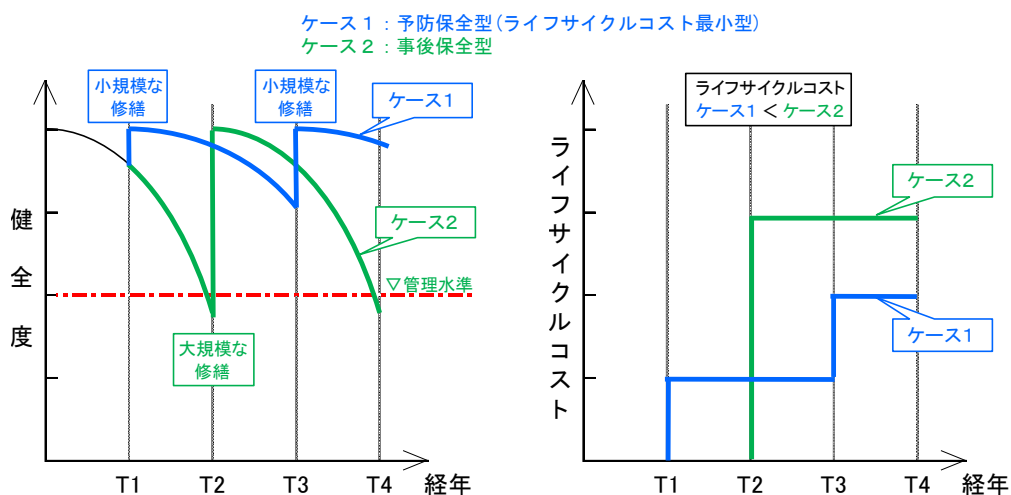


図4-1 修繕規模のイメージ

図4-2 LCCのイメージ

§ 5. 対策の優先順位の考え方

定期点検の結果、判定区分Ⅳと診断された施設を最優先で実施し、続いて判定区分Ⅲと診断された施設の修繕工事を行います。判定区分Ⅲの施設の優先順位については、路線重要度評価（a）と部材重み評価（b）に応じて優先順位を決定します（別表1）。

また、既に老朽化が進行している道路橋については、大規模な修繕を実施する場合と更新の場合のLCCを比較し、更新の方がLCCが小さくなる場合については、道路橋の架け替え工事を行います。

定期点検、詳細調査、修繕工事によって健全度の評価を変更した場合は、優先順位の見直しを行います。

スコアリングによる重要度評価

a. 路線重要度評価（社会的重要度）

No.	項 目	配 点	内 容
1	緊急輸送道路（一次）	20	防災上重要
2	緊急輸送道路（二次）	15	防災上重要
3	緊急輸送道路（市指定）	15	防災上重要
4	重要物流路線	20	防災上重要
5	代替・補完路	15	防災上重要
6	重要交通路影響（鉄道）	30	地域への影響
7	重要交通路影響（国道）	20	地域への影響
8	代替路無し	20	防災上重要
9	重要ライフライン（送水）	10	防災上重要
10	重要ライフライン（下水）	10	防災上重要
11	重要ライフライン（警報）	10	防災上重要
12	バス運行路線（公共バス）	5	地域への影響
13	総交通量 大型交通量	多い(5)	地域への影響
		中(4)	
14		少ない(3)	
		極小(1)	
15	周辺人口	無(0)	
16	インフラ（配水）	5	地域への影響
17	インフラ（下水）	5	地域への影響

b. 部材の重み評価

No.	項目	評点	No.	項目	評点	No.	項目	評点
1	床版	8	5	伸縮装置	2	9	橋台・橋脚	8
2	主桁	10	6	配水装置	2			
3	横桁	5	7	支承	6			
4	舗装	4	8	防護柵	1			

§ 6. 個別施設の状態・対策内容・実施時期・対策費用

一巡目の定期点検を平成27年度から平成30年度にかけ、本市が管理する道路橋443橋の点検実施し、二巡目の定期点検を令和2年から令和5年度にかけて行いました。その結果については、表6-1のとおりです。この一・二巡目の定期点検の結果で、判定区分Ⅲ及びⅣと診断された道路橋を対象に、表6-2のとおり補修等の修繕計画を策定しています。

なお、この策定した修繕計画については、令和7年度からの三巡目の定期点検結果を随時反映し、スコアリングによる重要度評価で見直を行うため変更する場合があります。

また、財政状況、予算措置状況に応じて修繕計画を見直すことがあります。

(1) 判定結果と修繕計画

対策は、点検・判定結果に基づき、道路橋の損傷状況・原因を十分把握した上で、経済性、施工性等を考慮し決定します。

表6-1 点検計画と判定結果

一巡目 点 検	点検 数量	判定結果の区分				二巡目 点 検	点検 数量	判定結果の区分				三巡目 点 検	点検 数量	判定結果の区分			
		I	II	III	IV			I	II	III	IV			I	II	III	IV
H27年度	16	5	6	4	1	R2年度	15	1	10	4	0	R7年度	17				
H28年度	167	75	80	12	0	R3年度	171	40	117	14	0	R8年度	170				
H29年度	90	25	56	8	1	R4年度	90	32	56	2	0	R9年度	89				
H30年度	170	64	88	18	0	R5年度	170	80	88	2	0	R10年度	170				
合計	443	169	230	42	2	合計	446	153	271	22	0	合計	446				

※ 二巡目点検の判定Ⅲの橋梁については、一巡目点検と重複しているも含まれています。

※ H27年度に判定Ⅳとなった橋谷橋はH29に架替えたため、二巡目の点検はR3年度に実施しています。

※ H29年度に判定Ⅳとなった河瀬陸橋はR4に架替えたため、二巡目の点検はR4年度に実施しています。

表6-2 道路橋の修繕計画

判定 区分	点検 数量	修繕計画及び結果														
		H27	H28	H29	H30	H31 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
一巡目点検結果																
I	169	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
II	230	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
III	42	0	1	1	1	0	0	2	31	2	4	0	0	0	0	0
IV	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
二巡目点検結果		修繕計画及び結果														
I	153						0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
II	271						0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
III	22						0	1	14	2	1	0	2	1	0	0
IV	0						0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三巡目点検結果		修繕計画及び結果														
I	0															
II	0															
III	0															
IV	0															

※ 修繕計画及び結果の件数は、修繕完了（予定）年度としています。

※ 二巡目点検において新たに判定Ⅲとなった橋梁は5橋あり、現在修繕完了しています。

※ 判定Ⅲの玉川橋は、通行止措置を行っており、廃止も含め検討を行っています。

(2) 道路橋の点検・修繕計画

令和7年度から令和11年度までの道路橋の具体的な点検・修繕計画は、別表1のとおり計画しています。

（３）道路橋修繕方針

- ① 定期点検及び診断結果の判定区分に基づき対策を行います。
- ② 判定区分Ⅳ（緊急に措置を講ずべき状態）と診断された場合、直ちに関係機関協議を行い、通行規制ならびに必要な応じて応急対策を実施した上で、本対策を行います。
- ③ 判定区分Ⅲ（早期に措置を講ずべき状態）と診断された場合、損傷状況ならびに路線重要度に応じて優先順位を付けて本対策を行います。
- ④ 対策方法は、損傷状況・原因を十分把握した上で、対策範囲・規模については、対策を満足する範囲で経済性、施工性等を考慮し決定します。
- ⑤ 老朽化の進行が著しい道路橋は、大規模な修繕を実施する場合と更新の場合のＬＣＣを比較します。更新の方がＬＣＣが小さくなる場合については、道路橋の撤去・架け替え工事を行います。

（４）修繕内容・対策費用

個々の道路橋の計画期間内に要する修繕内容、対策費用の概算については、別表2のとおりとして計画しております。

§ 7. 新技術の活用等とコスト縮減に関する今後の取組み

(1) 新技術の活用方針

法定点検の実施方法や修繕等の工法案の検討において、新技術情報提供システム【NETIS】や点検支援技術性能カタログ(案)などを参考に、新技術の活用によるコスト縮減や事業の効率化を検討します。

特に、従来、橋梁点検車やロープアクセス等により点検を実施していた橋梁を対象に、点検の効率化やコスト縮減効果が見込まれる新技術を活用し、令和11年度末までに2橋程度で点検費用の1%程度の削減を目指します。

また、修繕工事においては、令和11年度末までに1橋程度で修繕費用の1,000千円程度の削減を目指します。

(2) 集約化・撤去の方針

法定点検の結果、判定区分Ⅲ・Ⅳとなった橋梁については、施設の利用状況や代替路の有無等の確認を行い、地元の意見も踏まえながら集約化・撤去、廃止を検討します。

本市ではこれまでに、撤去の実績はありませんが、令和5年度より和歌山県が主体で広域連携の地域インフラ群再生戦略マネジメント(群マネ)のモデル地域となっており、具体的な集約・撤去の橋梁選定を行い、検討を進めており、令和11年度末までに1橋の集約化・撤去、廃止を目指し、維持管理費用420千円程度の削減を目指します。また、判定区分Ⅰ・Ⅱの橋梁についても同様に、橋梁の重要度と隣接路線の整備状況(リダンダンシーも踏まえた代替路の有無)を踏まえ、今後の点検結果をもとに7橋程度について集約化・撤去、廃止を検討します。

(3) 長寿命化によるコスト縮減効果

従来の対事後保全型の維持管理を継続して実施した場合、現在の実績より1.3(億円/年)、物価上昇を年5%、中間の25年で試算を行うと2.9(億円/年)、今後50年間で約145億円の維持管理費がかかると予測されます。一方、予防保全型の維持管理へ転換した場合、今後50年間で約30%のコスト縮減効果を期待しています。

※橋梁数 446橋 重要橋梁 134橋(全体の約30%)

重要橋梁を橋長30m以上又は幅員10m程度以上の橋梁を対象とした場合として試算

事後保全型:全橋梁をⅢ判定で対策実施

別表1 道路橋 点検・修繕計画

2025.12月

番号	道路橋名	路線名	架設年次 (西暦4桁)	橋長 (m)	幅員 (m)	1巡目 点検結果		2巡目 点検結果		3巡目 点検結果		点検・修繕計画					備 考
						点検 年度	判定 区分	点検 年度	判定 区分	点検 年度	判定 区分	○：定期点検(3巡目)、□跨線部以外 ▲：詳細設計、●：修繕・架替工事					
												R7	R8	R9	R10	R11	
1	無名橋第31号	市道名古曽15号線	1984	12.5	2.1	H29	Ⅲ	R4	Ⅲ				●	●	○		R9撤去 ⇒R9点検不要
2	岸上第四跨線橋	市道岸上山田線	1982	14.6	8.0	H29	I	R4	I						○		
3	岸上第三跨線橋	市道岸上2号線	1981	15.0	5.5	H29	Ⅱ	R4	Ⅱ						○		
4	岸上第二跨線橋	市道岸上3号線	不明	17.7	5.0	H29	Ⅱ	R4	Ⅱ						○		
5	岸上1号橋	市道岸上4号線	1982	39.4	7.0	H29	Ⅱ	R4	Ⅱ		□				○		
6	河瀬陸橋	市道河瀬陸橋線	2023	23.5	2.0	H29	Ⅳ	R4	I						○		R2年撤去、R4年新設
7	大野高架橋	市道高野口8号線	2000	411.0	9.1	H29	Ⅱ	R4	Ⅱ		□				○		R2跨線部以外判定Ⅱ R4跨線部 判定Ⅱ
8	名古曽橋	市道高野口4号線	1987	16.0	7.4	H29	Ⅱ	R4	Ⅱ						○		
9	伏原応其跨線橋	市道伏原田原線	2000	104.2	12.6	H29	Ⅱ	R4	Ⅱ		□				○		R2跨線部以外判定Ⅱ R4跨線部 判定Ⅱ
10	しん橋	市道名古曽14号線	1987	16.0	7.4	H29	Ⅱ	R4	Ⅱ						○		
11	岸上第4跨線橋	市道岸上山田線	1971	19.0	2.5	H29	Ⅱ	R4	Ⅱ						○		
12	古妻跨線橋	市道古妻線	1956	9.4	4.1	H30	Ⅲ	R5	Ⅲ			●	●			○	
13	妻小橋	市道妻区内東1号線	1924	23.1	1.6	H30	Ⅱ	R5	Ⅱ							○	
14	三石台4号橋	市道三石台4号線	1983	20.9	10.2	H30	Ⅱ	R5	Ⅱ							○	
15	南海跨線橋	市道御幸辻吉原線	1985	116.8	8.5	H30	Ⅲ	R5	Ⅲ			●	□	●		○	R2跨線部以外判定Ⅱ R5跨線部 判定Ⅲ
16	清水跨線橋	市道清水西畑幹線	2011	127.4	9.3	H30	Ⅱ	R5	I			□				○	R2跨線部以外判定Ⅱ R5跨線部 判定Ⅰ
17	橋本側道橋	市道側道北馬場東家線	2012	264.5	6.3	H30	Ⅱ	R5	I			□				○	R2跨線部以外判定Ⅱ R5跨線部 判定Ⅰ
18	真土跨道橋	市道側道真土線	2004	43.5	12.8	H28	I	R3	I					○			
19	下兵庫跨道橋	市道下兵庫新畑1号線下兵庫大寺分岐線	2002	51.0	6.6	H28	I	R3	I					○			
20	北馬場跨道橋	市道北馬場区内5号線	2004	38.0	6.5	H28	I	R3	Ⅱ					○			
21	原田跨道橋	市道原田幹線	2003	31.0	14.9	H28	I	R3	Ⅱ					○			
22	市脇跨道橋	市道東家菖蒲谷線	2006	50.0	7.3	H28	I	R3	Ⅱ					○			
23	名倉跨道橋	市道名倉8号線	2004	94.9	5.9	H28	I	R3	Ⅱ					○			
24	中島跨道橋	市道西山大谷線	2001	66.4	8.7	H28	Ⅱ	R3	Ⅱ					○			
25	東家菖蒲谷1号橋	市道東家菖蒲谷線	2005	50.0	5.2	H28	Ⅱ	R3	Ⅱ					○			
26	橋谷大橋	市道慶賀野垂井線	1983	474.1	19.0	H27	Ⅲ	R2	Ⅲ			○					R4～5修繕済
27	三石台3号橋	市道三石台4号線	1983	21.7	9.9	H28	Ⅱ	R3	Ⅲ					○			R4修繕済
28	橋本林間田園都市駅前歩道橋	市道三石台歩専3-13号線	1987	40.1	11.7	H28	Ⅱ	R3	Ⅱ					○			
29	三石台歩道橋	市道三石台歩専2-12号線	1994	29.5	2.6	H29	Ⅱ	R4	Ⅱ						○		
30	岩倉大橋	市道慶賀野垂井線	2001	150.0	23.1	H27	Ⅲ	R2	Ⅲ			○					R4修繕済
31	矢倉脇深山跨道橋	市道矢倉脇深山線	1980	3.1	7.0	H28	Ⅱ	R3	Ⅱ					○			
32	吉原横断第二跨道橋	市道朝日谷線	1989	12.8	3.3	H28	I	R3	Ⅱ					○			
33	細川橋	市道慶賀野垂井線	1988	205.0	19.1	H27	Ⅲ	R2	Ⅲ			○					R3～4修繕済
34	慶賀野三石台3号橋	市道慶賀野三石台線	1982	26.1	3.1	H29	Ⅱ	R4	Ⅱ						○		
35	21号橋	市道城山台1号線	1981	28.2	16.3	H28	I	R3	Ⅲ					○			R5～6修繕済
36	城山台3号歩道橋	市道城山台歩専1-4号線	1980	38.8	4.0	H28	Ⅱ	R3	Ⅱ					○			
37	城山台2号歩道橋	市道城山台歩専1-5号線	1980	38.8	4.0	H28	I	R3	Ⅱ					○			
38	城山台4号歩道橋	市道城山台歩専1-2号線	1980	22.6	2.0	H28	I	R3	Ⅱ					○			
39	城山台5号歩道橋	市道城山台歩専1-2号線	1980	29.5	2.0	H28	Ⅲ	R3	Ⅲ					○			H28・R4修繕済
40	三石台6号橋	市道三石台歩専2-5号線	1984	18.1	4.0	H29	I	R4	I						○		
41	三石台8号橋	市道三石台歩専3-2号線	1984	17.8	3.7	H29	I	R4	Ⅱ						○		
42	慶賀野歩道橋	市道三石台歩専1-1号線	1980	23.7	2.4	H28	Ⅲ	R3	Ⅲ					○			R5修繕済
43	垂井高架橋	市道慶賀野垂井線	2004	142.0	22.2	H27	Ⅱ	R2	Ⅱ			○					
44	学文路跨道橋	市道西畑小学校線	1996	18.0	5.5	H29	I	R4	I						○		
45	学文路2号跨道橋	市道学文路幡天神線	1997	26.0	5.0	H28	I	R3	Ⅲ					○			R4修繕済
46	紀見A歩専1号歩道橋	市道紀見A歩専1号線	1989	22.7	3.5	H28	Ⅱ	R3	Ⅱ					○			
47	小峰台歩専2号歩道橋	市道小峰台歩専2号線	1989	20.9	2.4	H28	Ⅱ	R3	Ⅱ					○			
48	小峰台歩専3号歩道橋	市道小峰台歩専3号線	1989	21.6	4.0	H28	Ⅱ	R3	Ⅱ					○			
49	あやの台歩専1号橋	市道彩の台歩専5号線	2001	39.2	3.3	H28	I	R3	Ⅱ					○			
50	あやの台歩専2号橋	市道彩の台歩専6号線	2001	33.2	3.4	H28	Ⅱ	R3	Ⅱ					○			
51	東又橋	市道御幸辻吉原線	1979	30.0	9.0	H28	I	R3	Ⅱ					○			
52	あやの台南歩道橋	市道彩の台歩専17号線	2005	40.0	3.3	H28	Ⅱ	R3	Ⅱ					○			
53	浦島跨道橋	市道高野口8号線	1999	36.4	22.8	H28	Ⅱ	R3	Ⅱ					○			
54	市脇側道橋	市道南側道市脇線	2008	99.0	7.2	H27	I	R2	Ⅱ			○					
55	神野々側道橋	市道南側道柏原神野々線	2007	17.8	10.0	H27	I	R2	Ⅱ			○					
56	田原川側道橋	市道南側道名古曽線	2007	19.7	7.7	H28	I	R3	I					○			
57	高野参詣大橋	市道大野慈尊院線	2002	291.3	13.3	H27	Ⅱ	R2	Ⅱ			○					
58	本町市脇1号橋	市道本町市脇線	1953	8.2	6.2	H28	Ⅱ	R3	Ⅱ					○			
59	岩谷橋	市道岸上山田線	1970	13.6	7.7	H28	I	R3	Ⅱ					○			
60	戸津井3号橋	市道戸津井線	1987	12.7	4.8	H29	I	R4	Ⅱ							○	
61	細川境原杉尾1号橋	市道細川境原杉尾線	1931	9.6	4.8	H29	Ⅱ	R4	Ⅱ							○	
62	境尾橋	市道細川境原杉尾線	1931	10.8	4.0	H28	Ⅱ	R3	Ⅱ					○			

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

別表2 道路橋 修繕内容・対策費用（令和6年度までの概算費用）

2025.12

番号	道路橋名	路線名	架設年次 (西暦4桁)	橋長 (m)	幅員 (m)	1巡目の 点検結果		2巡目の 点検結果		詳細 設計 年度	修繕 架替 工事 年度	詳細 設計 金額 (千円)	主な修繕内容	概算工事 金額 (千円)
						点検 年度	判定 区分	点検 年度	判定 区分					
1	無名橋第31号	市道名古曾15号線	1984	12.5	2.1	H29	Ⅲ	R4	Ⅲ	R8	R9	18,000	上部工撤去・迂回路整備	73,000
6	河瀬陸橋	市道河瀬陸橋線	不明	14.7	1.7	H29	Ⅳ			R1	R2～R4	10,198	R2年撤去R2～4年新設	190,051
12	古妻跨線橋	市道古妻線	1956	9.4	4.1	H30	Ⅲ			R5	R7～8	6,069	主桁・支承補修	65,000
15	南海跨線橋	市道御幸辻吉原線	1985	116.8	8.5	H30	Ⅲ	R5	Ⅲ	R5	R7～8	11,183	防護柵補修	97,000
26	橋谷大橋	市道慶賀野垂井線	1983	474.1	19.0	H27	Ⅲ	R2	Ⅲ	R2	R4	20,350	主桁補修・伸縮装置	216,596
27	三石台3号橋	市道三石台4号線	1983	21.7	9.9	H28	Ⅱ	R3	Ⅲ	R4	R4	-	地覆補修	352
30	岩倉大橋	市道慶賀野垂井線	2001	150.0	23.1	H27	Ⅲ	R2	Ⅲ	R3	R3～R4	16,028	主桁補修	160,297
33	細川橋	市道慶賀野垂井線	1988	205.0	19.1	H27	Ⅲ	R2	Ⅲ	R2	R3～R4	9,471	支承・主桁補修	73,876
35	21号橋	市道城山台1号線	1981	28.2	16.3	H28	I	R3	Ⅲ	R5	R6	5,207	主桁・床版補修	18,513
39	城山台5号歩道橋	市道城山台歩専1-2号線	1980	29.5	2.0	H28	Ⅲ	R3	Ⅲ	R4	R4	-	地覆補修	101
42	慶賀野歩道橋	市道三石台歩専1-1号線	1980	23.7	2.4	H28	Ⅲ	R3	Ⅲ	R3	R5	5,907	横桁・床版補修	28,614
45	学文路2号跨道橋	市道学文路幡天神線	1997	26.0	5.0	H28	I	R3	Ⅲ	R4	R4	-	高欄補修	645
66	嬉野橋	市道野嬉野線	2004	12.3	3.4	H28	Ⅲ	R3	Ⅲ	R4	R4	-	主桁・床版補修	501
79	北ノ木橋	市道(菖蒲谷)奥の谷線	1987	13.8	4.8	H28	Ⅲ	R3	Ⅲ	R4	R4	-	支承・床版補修	150
84	上手1号橋	市道上手線	不明	7.6	2.2	H30	Ⅲ			R3	3	-	主桁・下部工補修	123
87	湯屋谷3号橋	市道湯屋谷線	不明	4.0	2.3	H28	Ⅱ			H29	H29	-	下部工補修	400
99	落合川橋	市道平野大和6号線	不明	7.1	3.0	H30	Ⅲ			R4	R4	-	主桁・支承補修	105
111	下兵庫河瀬2号橋	市道下兵庫河瀬線	1981	13.1	4.2	H29	Ⅲ	R4	Ⅱ	R4	R4	-	主桁・支承補修	209
116	釜谷橋	市道隅田南部線	1960	4.0	4.0	H28	Ⅱ	R3	Ⅲ	R4	R4	-	防護柵・下部工補修	154
119	去年川1号橋	市道去年川線	1960	9.2	3.4	H30	Ⅲ			R4	R4	-	主桁・舗装補修	105
120	去年川2号橋	市道去年川線	1960	9.6	4.5	H30	Ⅲ			R4	R4	-	主桁・床版補修	105
121	去年川3号橋	市道去年川線	1960	7.1	3.4	H30	Ⅲ			R4	R4	-	主桁・下部工補修	300
141	菖蒲谷1号橋	市道山田菖蒲谷線	2005	9.3	7.6	H28	Ⅲ	R3	Ⅲ	R4	R4	-	主桁・床版補修	752
182	宮川橋	市道原田幹線	1981	22.6	10.6	H28	Ⅱ	R3	Ⅲ	R4	R4	-	支承補修	594
197	須河北部垣内1号橋	市道須河北部垣内線	1971	15.3	4.7	H28	Ⅲ	R3	Ⅲ	R4	R4	-	支承・床版補修	501
198	玉川橋	市道南宿線	不明	30.1	2.3	H29	Ⅲ	R4	Ⅲ				廃止も含め検討	通行止措置
207	山田川橋	市道紀ノ川堤防沿線	1990	136.6	9.6	H27	Ⅲ	R2	Ⅲ	R1	R2～R3	7,519	床版・横桁補修	59,453
214	菖蒲谷2号橋	市道御幸辻吉原線	1979	44.9	8.8	H28	Ⅲ	R3	Ⅲ	R4	R4	-	支承・主桁補修	662
222	西川橋	市道高野口北部連絡線	1974	30.8	10.0	H28	Ⅲ	R3	Ⅲ	R4	R4	-	支承・下部工補修	381
223	田原1号橋(無名橋第39号)	市道高野口北部連絡線	2000	25.0	9.2	H29	Ⅲ	R4	Ⅱ	R4	R4	-	主桁・横桁補修	250
294	明光東家菖蒲谷1号橋	市道明光東家菖蒲谷線	1991	4.3	3.0	H30	Ⅲ			R4	R4	-	床版補修	151
296	北山橋	市道菖蒲谷奥の谷線	1987	2.2	2.7	H30	Ⅲ			R4	R4	-	床版補修	102
299	奥山橋	市道奥山線	1957	7.2	3.0	H30	Ⅲ			R4	R4	-	主桁・支承補修	351
304	谷川2号橋	市道谷川線	1987	3.1	4.7	H30	Ⅲ			R4	R4	-	主桁・下部工補修	138
307	谷川5号橋	市道谷川線	1987	3.1	3.6	H28	Ⅲ	R3	Ⅲ	R4	R4	-	主桁補修	138
315	湯屋谷10号橋	市道湯屋谷線	不明	3.1	1.9	H28	Ⅲ			H30	H30	-	下部工補修	300
325	橋谷橋	市道御幸辻橋谷線	2017	11.9	4.6	H27	Ⅳ			H28	H29	5,036	H29年架け替え済	38,779
330	根古4号橋	市道根古線	1980	7.0	5.0	H30	Ⅲ			R4	R4	-	主桁・床版補修	463
333	矢倉脇区内1号橋	市道矢倉脇区内線	1980	11.0	3.1	H29	Ⅲ	R4	Ⅱ	R4	R4	-	主桁・床版補修	374
375	有岡幡天神1号橋	市道有岡幡天神線	1997	2.1	2.2	H30	Ⅲ			R4	R4	-	下部工・路面補修	623
383	塚原橋	市道玉玉塚原線	1972	6.1	4.7	H30	Ⅲ			R4	R4	-	主桁補修	478
401	嵯峨谷中谷1号橋(無名橋第6号)	市道嵯峨谷4号線	不明	3.8	1.5	H30	Ⅱ			R4	R4	-	主桁・床版補修	634
415	大野東谷7号線(無名橋第27号)	市道大野38号線	2000	4.4	2.9	H30	Ⅲ			R4	R4	-	下部工補修	176
316	大野東谷8号線(無名橋第28号)	市道大野38号線	不明	3.6	3.1	H30	Ⅲ			R4	R4	-	下部工補修	176
422	矢倉橋	市道矢倉脇区内線	1980	16.3	3.7	H29	Ⅲ	R4	Ⅱ	R4	R4	-	主桁・支承補修	278
424	嵯峨谷2号橋(無名橋林道第6号)	市道嵯峨谷13号線	不明	20.1	4.5	H29	Ⅲ			R4	R4	-	支承・横桁補修	154
437	慶賀野橋谷橋(城山橋)	市道慶賀野橋谷線	不明	12.2	6.0	H30	Ⅲ			R4	R4	-	主桁補修	349
439	真土畑田1号橋	真土畑田線	不明	13.7	4.1	H28	Ⅲ	R3	Ⅱ	R4	R4	-	主桁補修	160

無名橋第19号橋を削除

火恋橋を削除

岸上橋を削除

			R1	
○				
□				
▲				
●				

